にじ

あなたと
NOSAI をつなぐ
かけはし

2026 秋
Vol.47



特別企画 P6～P7 建物共済

石川県危機管理政策課に聞く
地震リスクと「今やるべき備え」

P2～P5『収入保険』　制度のキホンをおさらい
P8～P9『園芸施設共済』　強風への備え

今号のイチオシ笑顔…中能登町 藤田健太郎さん（P15）

8月記録的大雨

被災された皆さまに
心よりお見舞い申し上げます

安心のネットワーク
NOSAI
石川県農業共済組合

「もしも」にそなえる、あなたへのエール。
収入保険

制度のキホンをおさらい
1 知っておきたい！基準収入金額のしくみと特例制度

収入保険は、すべての農作物を対象に、自然災害や価格低下だけでなく農業者の経営努力では避けられない収入減少があった場合に補償する総合的な保険です。収入保険で重要な「基準収入金額」と、頑張りを評価して基準を上乗せしてくれる頼もしい「特例制度」について、分かりやすくおさらいしていきましょう。

基準収入金額はどうやって決まるの？



収入保険の説明や書類でよく目にする「基準収入金額」は、保険金をお支払いする際の「ものさし」となる大切な金額です。作付面積や過去の農業収入金額の実績をもとに算定されます。

補償のベースとなるこの「基準収入金額」の決まり方を解説します。

基準は、「過去の平均」と「今年の計画」の低い方！

保険期間中の農業収入金額が、基準収入金額の90％（※1）を下回った場合に補てんの対象になります。

この金額は、原則として次のAとBを比べて「いずれか低い方の金額」に設定されます。

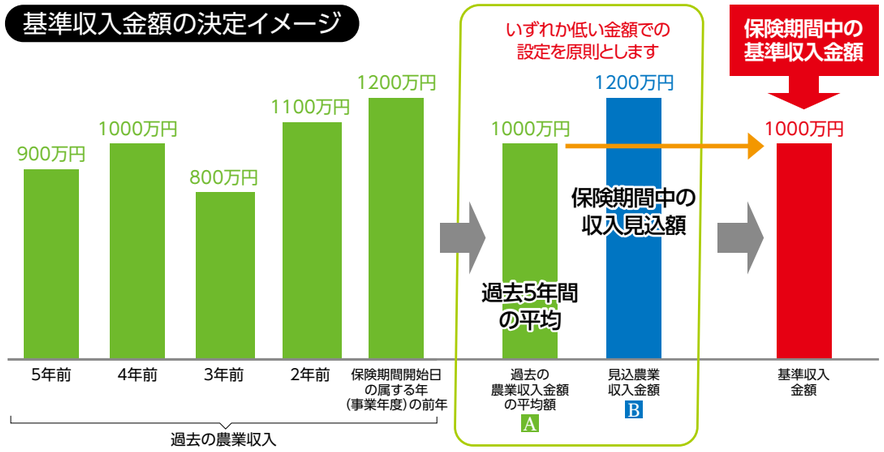
A 過去の実績
過去5年（直近）の農業収入金額の平均額（青色申告の実績による）

B 今年の計画
保険期間中に見込まれる農業収入金額（営農計画に基づく見込額）

保険期間は決算期間

保険の対象となる期間は1年間です。個人の場合は1月1日から12月31日まで。法人の場合はそれぞれの事業年度となります。

基準収入金額の決定イメージ



基準算定のかなめは営農計画！



過去5年の収入金額の実績も重要だけど、今年の営農計画も重要なのね。



その通りです！だからこそ、保険期間中に作付面積や作物を変更する場合は、お知らせいただく必要があるんですよ。



面積の増加や、栽培技術が上がって売上が伸びた場合は、農業収入が過去の平均で基準が低いままだと補償が少ないんじゃない？



「規模を広げた」「売上が伸びている」など収入の上昇が見込める場合、過去の平均を超えて基準をアップできる頼もしい特例があるのです。

農家の挑戦を応援する「二つの特例」

農家の皆さんの頑張りを正当に評価して基準収入金額を上乗せする「特例」が用意されています。（※2）

規模拡大特例

経営規模が拡大している場合

規模拡大特例は、経営面積を拡大する場合に、基準収入金額を上方修正する仕組みです。

面積を増やして前年より収入が増える計画の場合、過去の平均のままでの保険加入を防ぐことができます。これにより、経営面積の拡大を反映した適切な補償額が設定できます。

経営面積10haの稲作農家

過去5年の平均収入
1,000万円・・・A（過去実績）



作付面積を2ha増やしたから、今年の収入見込みは1,200万円 B
過去の収入の平均が基準だと物足らないなあ

規模拡大特例なら…
A 調整後の過去収入金額は1,160万円

B 見込農業収入金額は1,200万円
比較して低いほうだから

基準収入金額は1,160万円に!!



収入上昇傾向特例

農業収入が右肩上がりに伸びている場合

収入上昇傾向特例は、過去の農業収入が右肩上がりに伸びている場合、基準収入金額を上方修正して高い水準で補償を受けられる仕組みです。

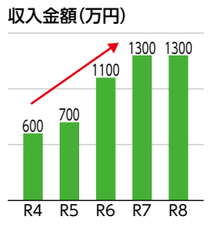
単純な5年間の実績では、収益性の高い作物への転換や栽培技術の向上により年々収穫量が増えている場合などは、過去の低い収入金額に引っ張られて、補償額が実態より低くなってしまいます。このギャップを解消するために用意されています。

経営面積1haの野菜農家



過去5年の平均収入
1,000万円・・・A（過去実績）

単価の高い作物に切り替えて年々収入が増えているから、このペースなら今年の収入見込みは 1,230万円 B
実態に合わせて補償してもらいたいなあ



収入上昇傾向特例なら…
A 調整後の過去収入金額は1,605万円

B 見込農業収入金額は1,230万円
比較して低いほうだから

基準収入金額は1,230万円に!!



※1　保険方式の補償限度と積立方式の補償幅を最大で選択した場合

※2　特例の詳しい適用要件は「ご契約のしおり」に掲載されています。

■南加賀グループ　076-239-2355　■石川中央グループ　076-239-2555　■能登グループ　（羽咋郡市・中能登町地区）　076-239-2455　■能登グループ（七尾市・奥能登地区）　0768-76-2251

「もしも」にそなえる、あなたへのエール。
収入保険

制度のキホンをおさらい
2 手厚い補償と納得の保険料等のしくみ

加入者が負担する保険料と積立金には国からの手厚い補助があります。選択できる最大の補償で加入するのが最もおすすめです。

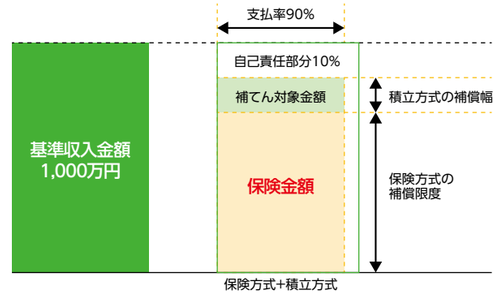
補償金額

最大補償は基準の81％

基準収入金額の10％が自己責任部分（免責部分）となります。
基準収入金額が高いほど、支払い開始のラインが高く設定されると同時に補償額も充実します。

最大補償がおすすめ

補償金額の設定は、最大で加入するのが最もおすすめです。
保険方式と積立方式を最大で選択すると、基準収入金額の81％が補償されます。



保険料と積立金は 国からの補助で負担軽減

保険料や積立金の加入者の負担は、国からの手厚い補助により軽減されています。
保険料の50％、積立金の75％を国が負担するため、最大の補償を選んでも、自己負担は大幅に抑えられています。
保険金の受け取りがなかった場合は、保険料率の区分が引き下げられ、翌年の保険料は下がります。
また、使わなかった自身の積立金は翌年に繰り越され、解約時には返還されます。



補償を充実させると、保険料などの負担が心配ね



加入者の負担は、国からの手厚い補助により軽減されています。
最大の補償を選んでも自己負担は抑えられているんですよ。



それは助かります！
備えあれば憂いなし！
規模拡大や新規作物にも挑戦しようかな!!

※作付面積や作物を変更した場合は、農作物等の作付け後1か月以内に通知してください。
※収入低下が見込まれる場合は、現地確認等で被害を確認できる状態が保持されている期間に通知してください。
通知が遅れた場合は、保険金等の支払いが免責となり、減額されますのでご注意ください。

詳しくはホームページで

営農計画の変更や事故発生通知はすみやかにNOSAIへ



病虫害やけがの備えも万全



川北町田子島
穴田（あなた）　幸治（こうじ）さん（52歳）
◆経営内容◆ 水稲 5.9ha、野菜 55a

両親とともに、水稲のほか、ハウス2棟と露地でキュウリやアイスプラントなどを栽培しています。

珍しい野菜でファン獲得

ヘタにとげが無いナス「とげなし千両」や、冬の寒さで甘みが増すキャベツ「とくみつ」など、珍しい品種も栽培しています。味や見た目の違いに面白さを感じています。リピーターが増えてきたことも嬉しいです。
前職は介護士でした。家業を継ぐために退職し、新規就農しました。補助金を活用してハウスを建て、農機具も新調しました。育てた作物が収穫につながった時には大きなやりがいを感じます。

幅広い補償が魅力

収入保険には令和2年から加入しています。加入前に病虫害でナスが枯れてしまった経験があり、水稲だけでなく野菜も補償される点に魅力を感じ、加入を決めました。令和3年にも病虫害でナスが減収し、保険金に助けられました。過去に腰を痛めたことがあるので、病気や怪我で作業できない場合にも補償されるのは心強いです。
両親も高齢になってきました。今後は今の面積を維持しながら品目や栽培方法を工夫し、野菜の増収を目指したいと考えています。

加入者の声

頻発する地震や自然災害に備え



能登町曽又
川畑（かわばた）　慎太郎（しんたろう）さん（54歳）
◆経営内容◆
水稲 3.7ha　野菜 25a

水稲と、ハウス2棟と露地でズッキーニ、ブロッコリー、カボチャなどを、できるだけ農薬を抑えて栽培しています。

土づくりを重点に

強く丈夫な稲を育てることを重視し、肥料を使わず疎植することで根が張り、病害虫の発生も抑えられます。野菜栽培は土作りが基本です。奥能登の土は粘土質なので、もみ殻を入れ、団粒構造をつくるよう促しています。

制度の力が復旧の支えに

収入保険には令和4年から加入しています。頻発する地震や自然災害に備えるため必要だと感じたからです。NOSAI職員が丁寧に説明してくれたおかげで安心して加入できました。令和6年の能登半島地震と豪雨で大きな被害を受けましたが、保険金に助けられました。
強風で施設が壊れた際には園芸施設共済も復旧の支えになりました。農業は天候の影響を大きく受けるので、制度のありがたさを実感しています。
地震後は復興イベントなどを通じて個人向け販売が増えました。今後は飲食店との取引を広げ、ハウスの増設や栽培技術の向上で生産性を高め、経営をより安定させたいと考えています。

■南加賀グループ　076-239-2355　■石川中央グループ　076-239-2555　■能登グループ　（羽咋郡市・中能登町地区）　076-239-2455　■能登グループ（七尾市・奥能登地区）　0768-76-2251

命と住まいを守るため、防災・減災を考えてみましょう



特別企画　石川県危機管理政策課に聞く

地震リスクと「今やるべき備え」

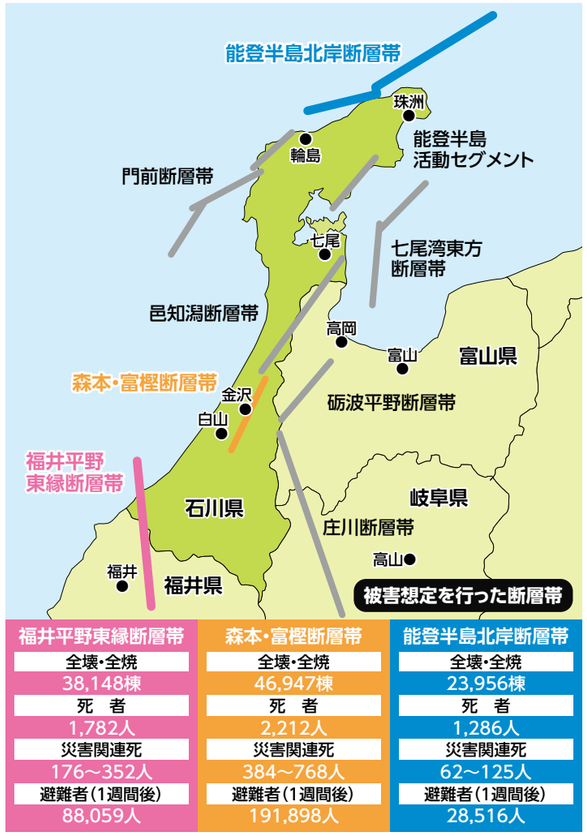
建物共済

いつ発生してもおかしくない大地震

石川県庁を訪ね、県の最新データと私たちが今すぐ取り組むべき防災対策についてお話を伺いました。地震は予告なくやってきます。石川県が公表している被害想定調査でも、県内の広範囲で大きな揺れが懸念されています。「自分の地域は大丈夫」と思わず、日頃からの備えを見直してみませんか？

❶ 知っておきたい石川県のリスク

今年の7月に発生した令和8年熊本地震をはじめ、全国各地で地震への警戒が高まっています。また、私たち石川県民にとって令和6年能登半島地震の記憶は新しいものです。



森本・富樫断層帯はSランク

県が昨年5月に見直した地震被害想定によると、県内の複数の活断層により、どの市町に住んでいても大きな揺れに見舞われる可能性があります。

金沢市周辺に影響を及ぼす「森本・富樫断層帯」は、全国に多数ある断層の中でも、今後30年以内の地震発生確率が非常に高いとされる「Sランク（最上位）」に位置づけられています。

未解明の断層による地震が突発的に起こることもあるため、「うちの地域は大丈夫」「しばらくは起きないだろう」と思わずに備え続けることが何より重要です。



「大きな災害が続くなか、大切なのは『知識』を『日頃の行動』に変えることです」と話す石川県 危機管理部 危機管理政策課 担当者（左）

❷ 地震が引き起こす被害

「○○人が死亡・負傷」といった数値上の想定だけでなく、被災後に具体的にどのような生活上の支障が出るのかを想像することが大切です。物資の不足・インフラ（電気・水道など）の途絶などもありますが、避難生活が必要となる原因は、建物被害によることが少なくありません。もし耐震補強などにより自宅の損傷が少なければ、水や食料・携帯トイレなどの備蓄を活用して、避難所に行かずに自宅で生活を維持することも可能になります。

想定される被害の例と対策



火災による被害

・停電が復旧したとき、電気機器や配線から火災が発生。

感震ブレーカーの設置

地震の揺れを感知し、自動的に電気を止めて、火災を防ぎます。



建物等の倒壊による人的被害

・建物の下敷きになると、救助が困難に。
・救助されても、体を強く圧迫されたことで命を落とすことも。

建物の耐震化

建物の倒壊を防ぐことで命を守ります。耐震改修工事で地震に強い建物に。



家具の転倒による被害

・固定していない家具が倒れて、死傷者が発生。

家具の固定

家具が倒れるとけがや避難の妨げになることも。家具を固定して安全を確保しましょう。

❸「もしも」のために――『建物共済』

万が一の災害時、生活再建を支えるのがNOSAIの建物共済です。総合共済なら、火災や風水害はもちろん、地震・噴火・津波による損害にも備えられます。

加入内容の確認・見直しをしてみませんか？

「昔入ったままで内容を覚えていない」「今の住まいに合った補償額になっているか不安」という方は、ぜひこの機会に契約内容をご確認ください。

見直しチェックポイント

☑ 地震の補償（総合共済）は加入していますか？
☑ 現在の再取得価格に合わせた補償額になっていますか？

ホームページで、再取得価格を試算できます。

詳しくはホームページで

園芸施設共済



あなたのハウスは大丈夫?

～強風への備えを確認しましょう～

秋の台風や冬型の強い季節風が発生しやすい季節は、強風によるハウスの倒壊やビニール破損の危険が高まります。事前にできる強風対策を行いましょう。

補強で備える

補強と共済加入で 損害を最小限に

近年は台風に伴い発達した積乱雲の下で落雷、ひょう及び竜巻などの激しい気象現象がしばしば発生しています。自然災害は避けられませんが、あらかじめ対策をしておくことで損害を減らすことはできます。ハウスの補強や共済加入で事前に対策を行い、大切な資産であるハウスを守りましょう。

材料費も比較的安価で、自分でできる対策です。

☑破損点検

施設内に風が吹き込まないように、破損の箇所を補修する

☑バンド

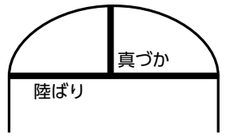
ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直す

☑筋かい

南北棟ハウスでは、南妻面に最も強い風圧力が桁行方向にかかるため、筋かいを設けて南北の妻面を補強する

☑陸ばりと真づか

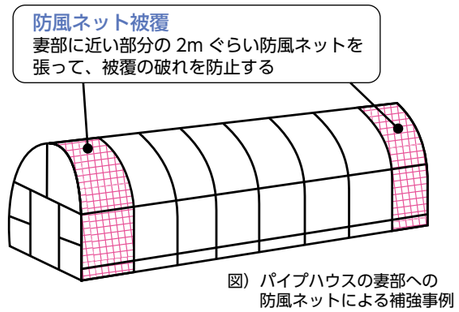
東西棟ハウスでは、南桁面に最も強い風圧力がかかるため、陸ばりと中柱または真づかを3～5m間隔で補強する



石川県農林総合研究センター「秋季(9月～11月)における農作物管理対策について」より作成

風の吹き込みによる浮き上がり対策

妻の部分は、特に風を強く受けるため、破れやすく、防風ネットなどを張ることによって被覆材が破れにくくなります。



図）パイプハウスの妻部への防風ネットによる補強事例

共済加入で備える

昨年度、本県での園芸施設共済で共済金の支払い対象となった193棟のうち、風の被害によるものは168棟と約9割（87％）を占めています。災害対策には、園芸施設共済加入が有効です。

補助金や融資は、園芸施設共済への加入を前提に実施されています



国は、ハウスの災害対策として園芸施設共済の加入を呼びかけています。また、園芸施設共済への加入等を要件とする補助事業が拡充されています。

園芸施設共済のおすすめポイント!

❶掛金は**国が半分を負担**

❷補償は**風はもちろん雪害などの自然災害や火災、車両の衝突など幅広く**

❸棟ごとに**ニーズに合わせて補償内容を選択**

❹特約を**プラスすると評価額までしっかり補償**

速やかにNOSAIまでご連絡をお願いします

- ●損害が発生した場合
- ●加入内容の変更
  - ・被覆期間の変更
  - ・被覆材の変更 など

園芸施設共済の詳細はこちら



加入者の声

3集落の法人組織が合併し平成30年に、当法人を設立しました。園芸施設共済には法人設立以前から加入し15年以上加入継続しています。

共済加入の大切さ

近年の自然災害の多さを受けて、パイプを太くしたり、埋設を深くするほか、筋かいを設けるなど工夫をしています。しかし令和6年12月の竜巻によりハウス2棟の本体および被覆材が被害に遭い、改めて自然の怖さを思い知らされました。

丁寧な対応で安心

そんな中、NOSAI職員の丁寧な対応によりビニールハウスを再建することができ、安心して営農を続けられています。

今後も強風対策を施しながら、万が一に備えて園芸施設共済に継続して加入していきます。

竜巻被害で自然の脅威を痛感



白山市　農）夢耕坊（ゆめこうぼう）

代表 **大西（おおにし）　慎一（しんいち）さん**（76歳）

◆経営内容◆

ビニールハウス4棟

水稲54ha、大豆11ha、麦11ha、ネギ28a、ブロッコリー39a

■南加賀グループ　076-239-2355　■石川中央グループ　076-239-2555　■能登グループ　（羽咋郡市・中能登町地区）　076-239-2455　■能登グループ（七尾市・奥能登地区）　0768-76-2251

わがまち＊＊この人

技術を引き継ぎ「能登栗」を守る
ビールを通じて復興を応援

穴水町　橋本（はしもと）　玲子（れいこ）さん（74歳）



「父が始めたクリ園を残していきたい」と話す橋本さん



昨年収穫して冷凍保存していたクリ

能登半島の中央、穴水町二子山麓で「能登栗」を育てる橋本農園の橋本玲子さん。定年後に父のクリ園を引き継ぎ、工夫を重ねながら維持する。近年はビールの原料としてクリを供給し、地域の復興を後押ししている。

橋本農園では、約４５０アールの園地に７００本のクリを栽培する。有機肥料を使い、農薬の使用を抑えて木への負担を減らし、土壌を健全に保つことを心がける。剪定にも時間をかけ、木が持つ力を最大限に引き出す管理を続けてきた。

「おとり木」でイノシシ対策

現在は園の経営も安定しているが、引き継いだ当初は苦労が多かった。最盛期には千本あったクリは、管理の難しさから約３００本まで減少していた。慣れない除草や剪定に加え、イノシシ被害への対策にも追われた。電気柵を１・５メートル内側に移し、外側の木を「おとり木」として侵入を防ぐ工夫を重ね、少しずつ本数を回復させてきた。

収穫期には観光農園として多くの来園者が訪れる。園の管理と観光対応を一人で担うのは大変だが、「購入客の喜ぶ姿が一番の励み」と笑顔を見せる。

ビールづくりへの挑戦後押し

昨年、金沢クラフト合同会社の本多隼人代表から「能登栗でクラフトビールを造りたい」と相談を受けた。「クリでビールを造ると聞き驚いたが、能登栗に目を向けてくれたことがうれしかった。若い人の挑戦を応援したかった」と橋本さんは振り返る。

冷凍保存で甘み引き出し

安定出荷とビール原料の確保のため専用の氷蔵庫を導入。園では晩生品種が多く、粒が大きく甘みが強いのが特徴で、冷凍保存によりデンプンが糖に変わって甘さが増し、よりビールに合う仕上がりになるという。本多代表は、「規格外のクリもペースト状に加工して副原料に活用している。今後は取引農家を増やしたい」と意気込む。

「能登栗」とビールを通じて地域をつなぎ、復興を応援することが２人の目標だ。



能登栗クラフトビールを手に橋本さん（左）と本多代表

アグリスクール2年でプレ就農
トマトの長期多段取りに挑戦

小松市　東（ひがし）　秀和（ひでかず）さん（46歳）

施設野菜の担い手育成に力を入れるＪＡ小松市の「アグリスクールこまつ」の５期生の東秀和さんは、研修を経て、今年４月から自分名義での営農を開始。向本折町のハウス団地で、トマトの長期多段取り栽培に挑戦している。



「水分管理で糖度が増す」と話す東さん

小松市では水田地帯にハウス団地が広がり、トマトやキュウリなどの施設野菜が主要品目となっている。同スクールは２０２１年に開校。トマト養液栽培を中心に、肥料・農薬の扱い、販売戦略、経営管理、先進農家での実習など、２年間の実践研修を行う。小松市で園芸の基礎から経営まで学べる研修制度として定着し、地域の産地づくりに欠かせない存在となっている。

さらにＪＡが整備したハウスを安価で貸し出す仕組みにより、就農時の大きな課題である初期投資を抑えられる点も特徴で、これまでに５期で14人が新規就農を果たしている



籾殻培地で育つ２本仕立ての株元

ハウス4棟を管理

異業種から農業への転身を決めた東さんは、１年目で基礎を学び、２年目は研修を続けながら実際の営農を行う〝プレ就農〟に入った。約10アールのハウス４棟で、トマト約１３５０株を２本仕立てで栽培。２月に定植し、同一株から年末まで収穫する長期多段取りに挑戦している。茎を５メートルほどまで伸ばし、ずり下げながら作業性を確保する方式だ。

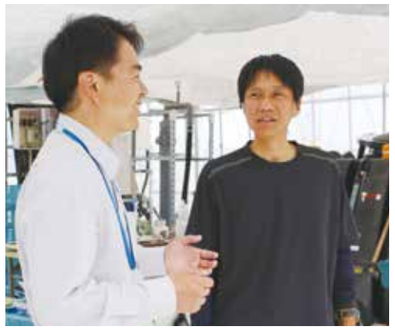
温度・湿度の環境整備

ハウス内には温度・湿度を測る簡易センサーを複数設置し、スマートフォンのアプリで環境を遠隔監視。灌水はタイマーと日射比例装置を組み合わせて自動化し、ミスト装置も導入している。日射量に応じた換気やカーテン操作を行い、過度なストレスを与えない環境づくりに努める。

入室時の履物交換や、葉かきに使うはさみの消毒を徹底するなど衛生管理にも力を入れ、「できるだけ樹に触れない」ことを心がけ、病害の侵入を防ぐ。

出荷目標は30トン

東さんは「多くの支援に支えられてここまで来られた。年間30トンの出荷を目標に、産地の一員として長く続けられる経営を築きたい」と意欲を語る。



NOSAI 職員から収入保険の説明を受ける

わがまち*この人

母と娘で6次化を実践
自家産農産物を総菜や菓子に

白山市美川神幸町
北村（きたむら） 信子（のぶこ）さん（62歳） 沙織（さおり）さん（34歳）



接客中の信子さん（左）と沙織さん（右）。

「藤ノ瀬ファーム」の、北村信子さんと娘の沙織さんが、自家産の農産物を使った総菜や菓子の製造・販売に取り組んでいる。5年前に自宅を加工場兼店舗へ改装し、週2日、主食1種・おかず4種・スイーツ1種を手頃な価格で提供する。

野菜を多く使った家庭的な味が好評で、利用客の7割がリピーターだ。献立は前日に無料通話アプリ「LINE」で配信し、予約を受けて仕込み量を調整することで、食品ロスを出さない工夫を続ける。

食材の多くは能登町の農園で自ら栽培。週末に能登へ通い、水稲やリンゴ、モモ、カボチャ、サツマイモなどを育てている。母娘は6次産業化によって自家産農産物の価値を高め、地域農業の活性化につなげたい考えだ。

信子さんは「この取り組みで人のつながりが広がった。培ったノウハウを次の世代へ伝えたい」と話している。

手作り焼き菓子や総菜を販売する「藤ノ瀬ファーム」の写真共有アプリ「インスタグラム」のQRコード

自社産米使った餅や大福販売
地域に根差す食文化発信

小松市中海町㈲のむら農産 代表取締役 野村（のむら） 佳史（よしふみ）さん（51歳）



直売所内でもち米を使った加工品を紹介する野村佳史代表（左）と販売スタッフ



もち米を植え付けたばかりの水田

有限会社のむら農産は、営農・加工・販売の三部門を軸に30年にわたり事業を展開してきた。野村佳史代表と家族と従業員の12人で通年の経営を支える。

営農部門では、父の善覚さん（76）を中心に、もち米7ヘクタール、六条大麦9ヘクタール、イチジク2ルアールを含む水稲20ヘクタールを栽培する。加工部門では自社産のもち米を使い、切り餅や大福を製造。正月や祭り、氷室開きなど需要に応えるほか、かき餅は年間を通して人気が高い。

販売部門では直売所「きのこの里」を運営し、自社製品のほか地元農家約30戸の農産物を受託販売する。ソフトクリームの販売で幅広い客層を呼び込み、地域に愛される販売拠点となっている。

水害を経験した同社は収入保険で備えつつ、若手人材の確保に取り組むとともに、「自社で育てた米を加工し販売する物語性」を発信している。

69歳でドローン免許取得
作業効率化で農地を守る

能登町宮地 河原（かわはら） 東洋史（とよし）さん（74歳）



今年更新したドローンと河原さん



ハウスでカボチャなどを育てる

河原東洋史さんは、水稲10ヘクタールと金時豆、カボチャなど30ルアールの野菜を栽培している。ドローンを導入し、防除や除草作業の省力化に取り組んできた。「米作りは40年になるが、気付けば集落の大部分を請け負うようになった」と振り返る。

宮地地区は山間地で圃場が細かく、作業効率が課題だった。補助制度を活用して導入を決め、69歳で免許を取得。「作業効率が劇的に上がり、体の負担も減った」と効果を実感する。

さらに、獣害防止の電気柵の管理には欠かせない草刈りだが、その畦畔の除草作業の効率化にも取り組む。草刈機に安定板を取り付け、地面を滑らせるように作業できるよう改善した。

今年からはトキ米の栽培にも挑戦。「昨年はコウノトリが飛来し、環境改善を実感した。鳥が生息しやすい環境を守りながら、地域の農地を未来につなげたい」と笑顔で語る。

能登で再び養蚕を
合同会社「しるくの会」設立

志賀町仏木 町出（まちで） 春美（はるみ）さん（58歳）



桑は胴枯病に強い「ゆきあさひ」を中心に栽培する町出さん



昨年収穫した玉繭

町出春美さんは、能登で再び養蚕を復活させようと、令和7年に「合同会社しるくの会」を設立した。「養蚕で能登の活気を取り戻したい」と意欲を見せ、春と秋の年2回で計900頭、今年は春に千頭を試験飼育した。

餌となるクワは、廃業で野生化した圃場や中能登町で栽培されている木から葉を摘み取り確保している。課題はクワの葉の安定供給で、挿し木から定植し利用できるまで約3年かかる。

現在使える木は110本、昨年定植した70本は来年以降の収穫を見込む。

飼育する蚕は、県産伝統織物「牛首紬」の原料となる「玉小石」。2頭が共同で繭を作る「玉繭」が発生しやすく、独特の風合いの糸になる。町出さんは「将来は能登に新たな雇用を生み出したい」と語り、県産絹糸の活用や縁起物のお守り加工など付加価値の創出を模索している。

締切は1月20日
損害防止機器購入助成

損害防止に要する対象機器について令和8年に購入した経費の一部を助成します。

対象機器は、①動力噴霧機（器）、②農薬散布ドローン、③水田乗用管理機（ブームスプレーヤ）・産業用無人ヘリコプター、④スピードスプレーヤ

申請締め切りは、令和9年1月20日です。

マイナンバー
提出のお願い

NOSAI部長・損害評価会委員の皆さんへの報酬等支払いにかかる書類作成の際に、マイナンバーが必要となります。

該当される方には、書留郵便で必要書類の提出を依頼しますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※組合から聞き取りの電話をすることはありません。

令和9年は役員改選の年です

来春（4月～6月）は役員・総代・損害評価会委員の改選期です。集落や地域において次期候補者をスムーズに選出できるよう準備を進めていただくようお願いします。

9月から12月までのうごき

9月
- 水稲共済損害評価
- 余裕金運用管理委員会
- 理事会
- 麦共済令和9年産申し込み開始（10日～）

10月
- 大豆共済損害評価

11月
- 監事会・中間監査

12月
- 余裕金運用管理委員会
- 理事会

農業経営に役立つ情報をお届け!
農業共済新聞
2か月無料試し読みキャンペーン実施中

●月4回（水曜日）発行
●年間購読料5,520円

建物共済
集金業務を廃止、掛金納入は口座振替で

コンプライアンスに沿った対策として、令和7年4月より、継続加入時の建物共済掛金等について、組合事務所外でお預かりする集金業務を廃止しました。これにより、共済掛金等の納入は口座振替のみの対応となります。

NOSAIでは、法令等遵守態勢の強化による経営の健全化に取り組んでいます。ご理解とご協力をお願いします。

ニーズ調査実施中

共済対象品目のうち、現在石川県で実施されていない品目について、加入希望がありましたら、組合までご連絡ください。

大豆共済
すきこみ前にご連絡を

大豆共済の損害評価が10月から始まります。被害申告をした場合は、NOSAIの損害評価が終わるまで、すきこみや収穫をしないようにお願いします。



広報紙「虹」配布見直しました

経費削減とNOSAI部長の負担軽減のため、今年度より、配布対象者と配布方法を変更しております。

※詳しくはホームページで。

NOSAI石川　検索

きらきらひかる
えがお輝く石川の星



米作りの奥深さと魅力

今年で6年目です。圃場ごとの土の深さや硬さの違いを見極め、生育ムラを防ぐよう作業を調整しています。農業機械は高性能化していますが、手作業も多いです。体力的に大変な面もありますが、米作りの奥深さに魅力とやりがいを感じています。

山田（やまだ）　章吾（しょうご）さん（35歳）

かほく市（農）末廣農産で働いています

自然の中で働く喜び



勤め始めて一年目で、農機の操作や日々の作業を覚えている最中です。効率よく丁寧に仕上げられるよう自分なりの感覚を養っています。自然の中で体を動かして働けることに魅力を感じています。担い手として地域農業の発展に貢献したいです。

小池田隆介（こいけだりゅうすけ）さん（36歳）



志賀町倉垣
板倉（いたくら）　一竜（いちろう）さん
（26歳）

牛の成長が励み

実家の肥育牧場で働いて6年になります。牛の体調を見ながら餌を調整するのは難しいですが、立派に育った時の達成感が励みです。県内産の子牛を積極的に仕入れ、安定して枝肉重量500キロを超える牛を育てられるよう努力を続けています。



鍛えた体力を仕事で発揮

今年4月から（農）あさひで働いています。代表の下で栽培や経営を学び、将来は法人を継いで地域農業を支えたいと思っています。時間がある時はランニングをしており、昨年の中能登町トレイルランで優勝しました。体力をつけて仕事に生かしたいです。

中能登町藤井
藤田健太郎（ふじたけんたろう）さん（32歳）

Face to Face

無人ヘリやドローン導入
将来は株式会社化を



「1集落1農場」を基本構想として農事組合法人を設立し、今年で9年目です。95名の組合員のうち、15名を中心に、集落内水田の90％を超える水稲を栽培するほか、育苗ハウス5棟と育苗箱を活用してショート葉ボタンの生産にも取り組んでいます。

担い手の平均年齢が75歳を超える中、無人ヘリによる防除やドローンによる追肥散布を導入し、省力化と効率化を図っています。さらに、「農福連携」にも取り組み、福祉施設利用者の受入れを通じて地域貢献と人手不足対策の両立を目指しています。

一方で、農事組合法人としての経営には限界を感じており、若い人材の雇用や経営基盤の強化を図るため、1日でも早い「株式会社」化を目指しています。

▼（農）せせらぎ　代表理事組合長
▼水稲40ヘクタール、ショート葉ボタン3万3400本

金沢市松寺町
下村（しもむら）　繁之（しげゆき）さん（79歳）

石川県農業共済組合

■本　所■
〒920-0007
金沢市田中町か 26 番地 1
TEL 076-239-3111（代）
FAX 076-203-0031
E メール
kouhou@nosai-ishikawa.or.jp

NOSAI石川
ホームページ

LINE公式アカウント
はじめました

友達追加は
コチラから

各グループのお問い合せ先は
こちら

【本所別館】
〒920-0007
金沢市田中町か 12 番地 1

南加賀グループ
TEL　076-239-2355
（加賀市・小松市・能美市・
川北町）

石川中央グループ
TEL　076-239-2555
（白山市・野々市市・金沢市・
かほく市・津幡町・内灘町）

能登グループ
TEL　076-239-2455
（羽咋市・志賀町・宝達志水町・
中能登町）

【奥能登支所】
〒928-0313
鳳珠郡能登町字天坂に 1 番地 1
TEL　0768-76-2251
（七尾市・輪島市・珠洲市・
穴水町・能登町）

NOSAI石川広報紙「虹」
秋号　vol.47
2026年10月発行

**営農計画の変更や事故発生通知は
すみやかにNOSAIへ**

P2.収入保険

8月大雨　水田の冠水・土砂流入被害



邑知潟の氾濫で、冠水した周辺の水田（羽咋市鹿島路町、8月28日撮影）

8月27日からの大雨により、羽咋市、宝達志水町、志賀町、中能登町で、河川の氾濫や土砂災害が発生しました。

当組合では、被害状況の確認を進めるとともに、適切な損害評価に基づく共済金の支払いや収入保険のつなぎ資金の周知などに努めています。

Face to Face

おじゃまします
地域のリーダーとして、営農に取り組む心構えや課題などをお聞かせください。



高齢化に伴う人手不足が課題
先進農業機械を導入して、農作業の効率化と省力化を図っています。

石川中央グループ
金沢市担当

金沢市松寺町
（農）せせらぎ代表理事組合長
下村繁之さん

本文はP15